

2014年4月23日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

モバイル M2M によるデータトラフィックは 2018 年には 7 倍近くに増加

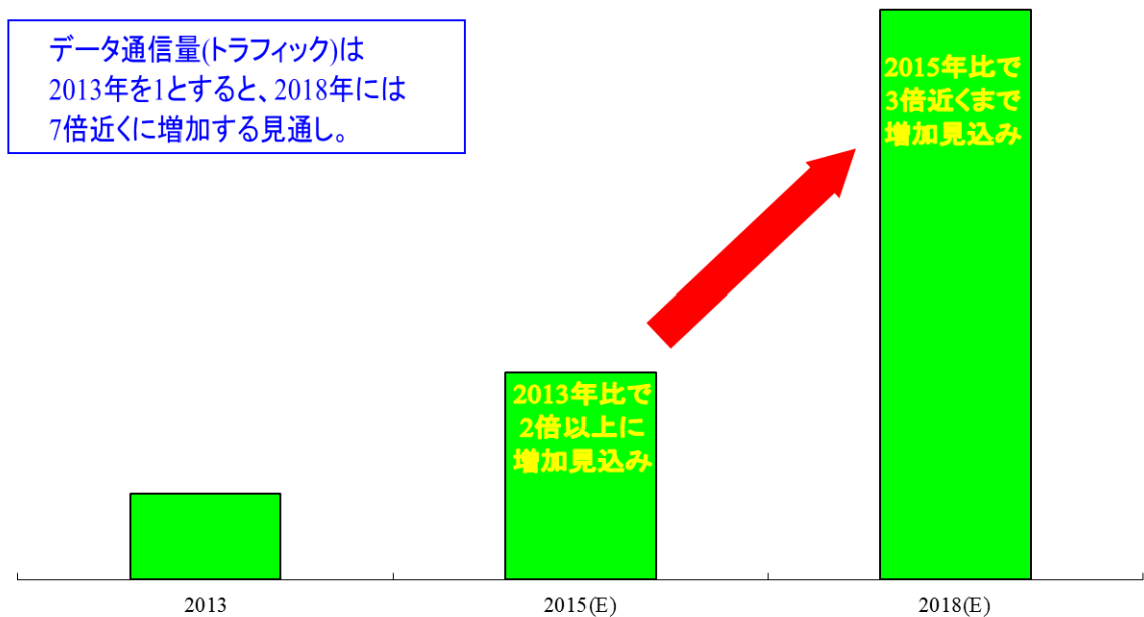
～ 車載用途、セキュリティ用途、画像伝送などの利用でデータ通信量が増加 ～

株式会社テクノ・システム・リサーチは、国内における携帯電話や PHS、WiMAX などのモバイル回線を利用した M2M (Machine to Machine) 市場に関する調査報告書『国内モバイル M2M 市場動向調査 (2013 年版)』シリーズの「第 2 部 データ通信量編」を 4 月に発刊しました (「第 1 部 市場動向編」は 3 月末に発刊済み)。

コンシューマ製品を除いた法人向けモバイル M2M 市場におけるデータ通信量(トラフィック)は、2013 年 12 月の月間データ通信量を 1 とした場合、2015 年 12 月にはその 2 倍以上に増加し、2018 年 12 月には 7 倍近くに増加する見通しとなった。

主にタクシーなどの業務用車両での位置情報管理や IP 無線の利用や、セキュリティカメラなどを含む画像伝送サービスといった、1 回線あたりのデータ通信量が比較的多い用途の契約件数が堅調に伸びていくことで、データ通信量全体も伸びていく見通しである。セキュリティ関連はカメラ以外も含めて、2020 年の東京オリンピック開催などを見越して利用が伸びると予測される。

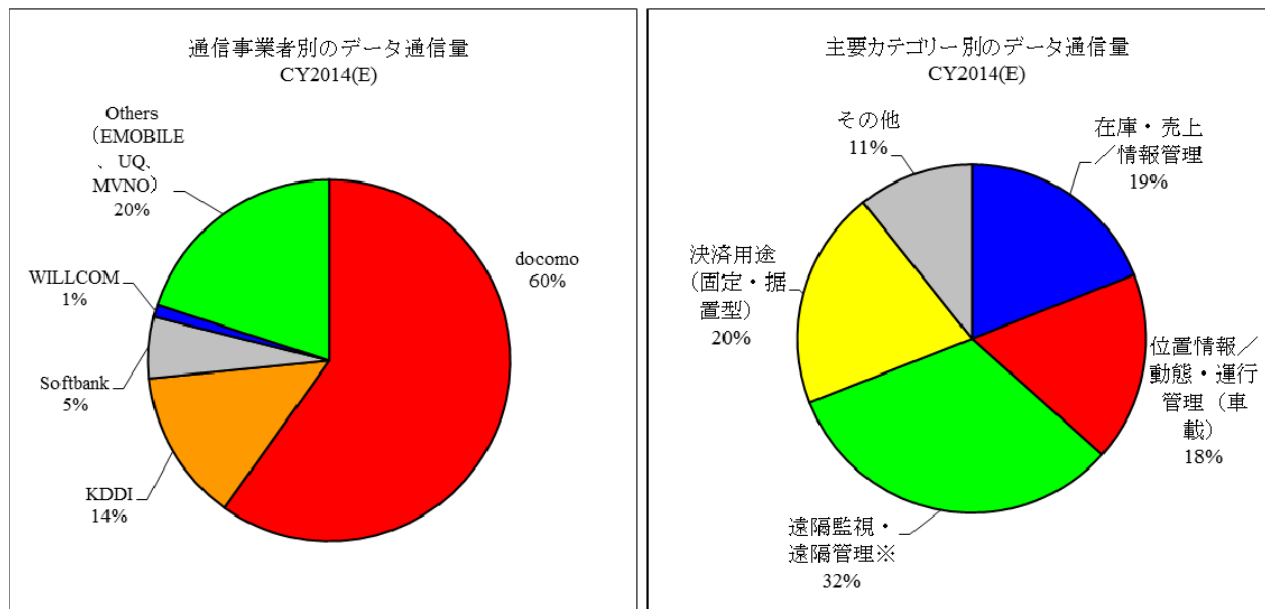
モバイルM2Mにおける総データ通信量の増加



CY

また、デジタルサイネージは全体に占める回線数は極めて少ないものの、1回線あたりのデータ通信量が他のサービスカテゴリーと比べると非常に多く、データ通信量全体を押し上げる要因となっている。また、電子マネーやクレジットカード、ATMなどの決済関連データも高い割合を占めている。

その一方で、機器の稼働状況などの遠隔監視は比較的データ通信量が少なく、さらに、接点情報や異常検知、子供の見守りなどの用途では、異常が発生した時のみデータが送信されるサービスが多いため、データ通信量は極めて少ないと見られる。



通信事業者別では、契約回線数でも高いシェアを占めている docomo が、画像伝送サービスや決済用途などで多くの利用されており、データ通信量では全体の6割を占めている。また、車載向けの契約回線数が多い MVNO や、大容量データ向けに回線を多く提供している WiMAX 系 MVNO なども高いシェアを占める見通しである。一方、PHS 回線を提供する WILLCOM は、小容量データを送受信する M2M サービスでの利用が多いため、回線数での市場シェアと比べるとデータ通信量のシェアは非常に低くなっている。

参考までに、モバイル M2M 市場におけるトラフィックを、総務省が発表した「我が国の移動通信トラフィックの現状(平成25年12月)」と比較すると、2013年12月時点ではデータ通信量全体の1%に満たない。また、その割合は2012年12月と比べると落ち込んでいることが分かった。

【資料紹介】

『国内モバイル M2M 市場動向調査(2013年版)』は「第1部市場動向編」と「第2部データ通信量編」にくわえて、「第3部クラウド・M2Mプラットフォーム動向編(仮題)」を準備中です。「第1部」はコンシューマ製品を含む M2M 市場を調査対象とし、契約回線数で市場規模とその動向を分析した。「第2部」では法人向け M2M 市場のみを調査対象とし、同市場におけるデータ通信量(トラフィック)で市場規模と動向を分析した。]

第1部と第2部は別冊となっており、別々のご購入も可能となっているが、第1部と第2部のセット購入割引も行なっています。また、第3部は原則、「第1部+第2部」のセット販売となります。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ
 第3グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp)
 TEL:03-3866-4505